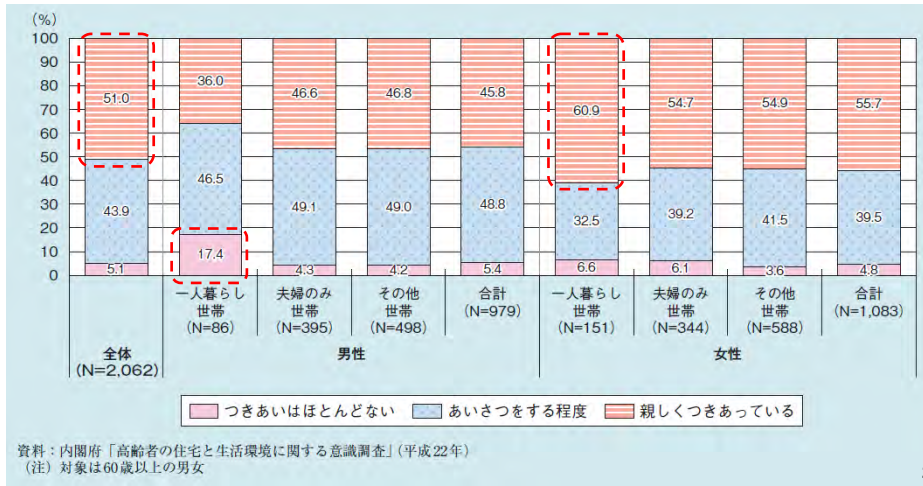


- 近所づきあいの程度は、「親しくつきあっている」が最も多く過半数を占める
- 一人暮らしの男性では「つきあいがほとんどない」が17.4%と多いが、一方で、一人暮らしの女性では「親しくつきあっている」が60.9%と最も多い

【図1-2-31】 近所づきあいの程度

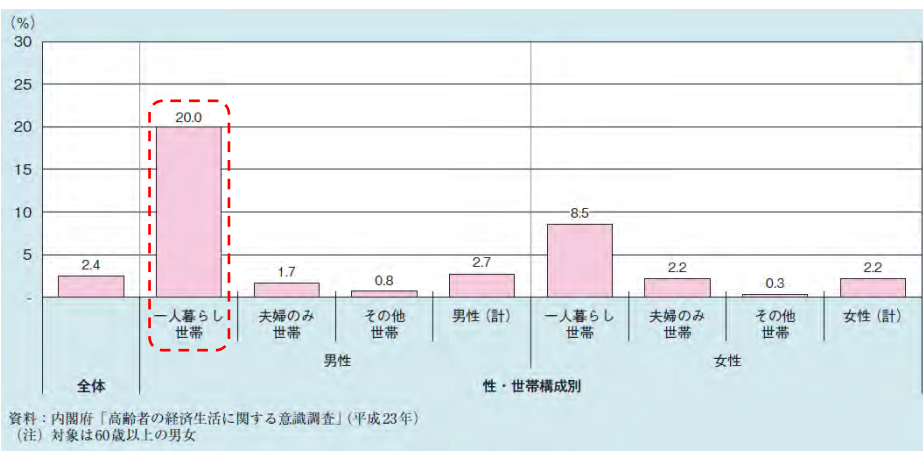


それから、資料の 30 頁でございます。これは、困ったときに頼れる人がいるかどうかについて聞いたものでございます。

全体的には、困ったときに頼れる方のいない人の割合は 2.4%と低いのですが、これが男性の一人暮らし世帯の方では、点線で囲っていますが、2 割の方が困った時に頼れる人がいないとお答えになっております。

- 病気のときや、一人ではできない日常生活に必要な作業などにおいて「頼れる人がいない」60歳以上の高齢者の割合は、一人暮らしの男性で20%にのぼる

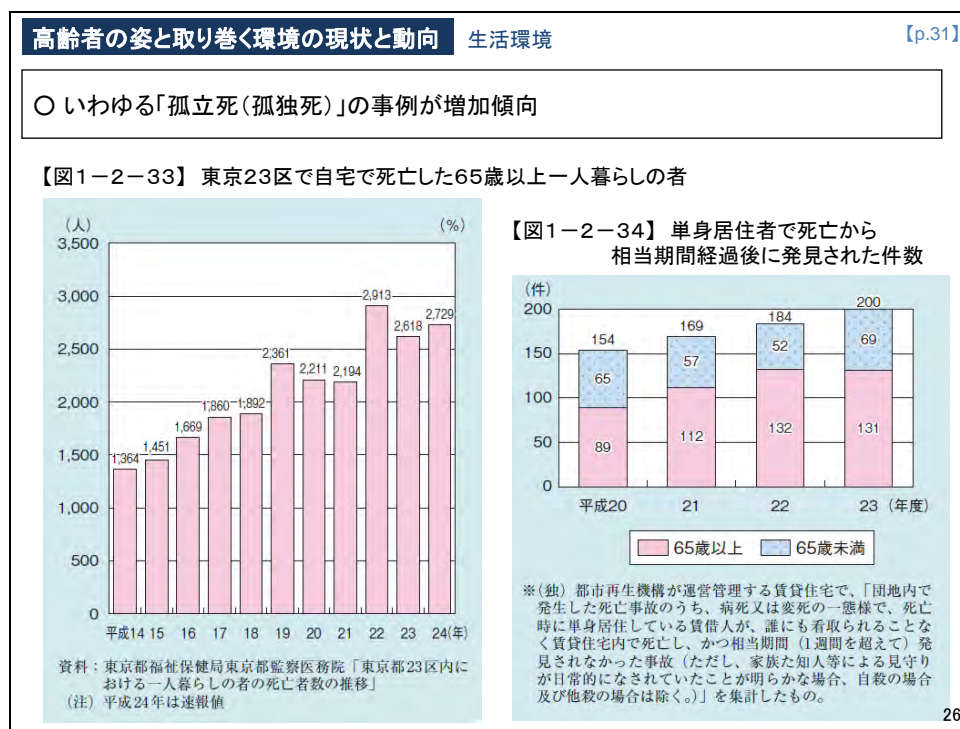
【図1-2-32】 困ったときに頼れる人がいない人の割合



次は、これはあまり好ましい話題ではございませんが、「孤独死」についてのデータでございます。東京23区で、自宅で死亡された65歳以上一人暮らしの方の数字でございます。

左側の棒グラフが平成14(2002)年以降の数字について毎年示したものでございます。平成22(2010)年が一番多く、その後少し下がっておりますけれど、やはり多くの方が一人で、自宅で亡くなっていらっしゃるということでございます。

右側のグラフが単身居住者で死亡から相当期間経過後に発見された件数ということで、これも少しずつですが増えている状況が見て取れます。



これは、先ほど申し上げました孤独死を身近な問題と感じる方の割合について示したものでございます。一番上が全体についての数字でございまして、点線で囲っている17.3%の方が孤独死を身近な問題だと感じる方でございます。これが単身世帯となりますと、上から2番目の帯グラフでございまして、大幅に増加しまして、45.4%の方が身近な問題だと感じるとお答えになっていらっしゃると思います。